

PANCETTA Profile

2013年5月22日より。

パンチェッタを作ってみた。まずは豚バラ肉に無数の小さな穴を開け、そこに塩をすりこんでいく。

この状態で時間の経過を待つ、すなわち熟成させる。

さらに乾燥と熟成を重ね一ヶ月以上を経てパンチェッタと呼べるものとなる。

果たしてどこまでが豚バラ肉でどこからがパンチェッタなのか。非常に難しい問題である。

熟成に終わりはない。逆を言えばどこまでもパンチェッタなのである。

決して腐らせることなく、味わうべき最高の瞬間をひたすらに追い求め、我々の作品は熟成を重ねていくのである。

さあ、召し上がれ。

PANCETTAとは

2013年より活動をスタートした、一宮周平によるパフォーマンスユニット。作品ごとにメンバーを集め、上演している。

一つのキーワードから派生する様々なシーンをオムニバス形式で展開する新感覚な喜劇を特徴とし、一見別々に見える各話はキーワードを通してひとつの世界観を作り上げ、独特な空気感を観客に味わってもらえるような作品を発表してきた。また日本特有の文化、言葉を多彩に活用すると共に、ミュージカルや音楽、ダンス、落語、絵画などの芸術分野も作品の構成要素として取り入れ、演劇という枠にとらわれない類を見ない表現を追求している。

舞台に必要なのは、ただそこに必死に生きている人がいること、そこに喜劇が存在すると考える。シンプルな舞台に存在する役者の身体表現、そして生演奏と光で彩られる時間と空間を共有することで、そこに生まれる感情と向き合い、想像を広げ、そして未来への新たな視点を見出すことができるような舞台を提供することを目指している。

舞台上の時間、空間を共に過ごすことで、きっとあなただけの世界が広がるはずである。明日からの世界の見え方が少しでも変わったのならば、それが PANCETTA にとっては最高の喜びなのかもしれない。

一宮周平 Shuhei Ichinomiya

パンチェッタ主宰／脚本、演出、俳優

人間の身体を駆使し、表現の可能性を示唆するとともに、装置のない空間に存在する音・光・身体がつくり出す時間により、観る者の想像を喚起し独特の世界へと導く、生でこそ価値のあるものづくりを念頭に面白さを追求し続けている。

近年では、外部劇団の演出、一般市民向け演劇プログラムの脚本・演出、演劇を取り入れた社会人研修の監修、子供向けホテルにて朗読劇イベント演出、アートスペースにて客席を設けず移動式に観覧する公演、子ども向けの童話とクラシックのコンサートやワークショップなど、劇場内にとどまらず様々な空間での可能性を探求している。



受賞歴

グリーンフェスタ2017 BASE THEATER 賞 (マグズサムズ「パパママ★サイバン」演出)

第9回せんがわ劇場演劇コンクール グランプリ、オーディエンス賞、俳優賞 (2018)

若手演出家コンクール 2018 最優秀賞、観客賞

第6回世田谷区芸術アワード“飛翔” 舞台芸術部門

演劇人コンクール 2020 奨励賞

2023年度ロームシアター京都×京都芸術センターU35 創造支援プログラム“KIPPU” 選出

<お問い合わせ先>

PANCETTA email: pancettapancetta@yahoo.co.jp

PANCETTA では、活動当初から画家の松本亮平とグラフィックデザイナーの齋藤俊輔が宣伝美術を担当し、演劇の宣伝ツールとして重要なチラシに力を入れてきた。個性的でインパクトのある公演チラシは、PANCETTA の舞台の空間性と言葉の世界の持ち味を表現し、イメージの確立に一役かっている。

松本 亮平

Ryohei Matsumoto

画家

第1回公演「Role」よりパンチェッタのキービジュアルとなるイラストレーションを担当。

現代社会を象徴する寓意を生き物たちの世界を借りて作品にしたいと考えている。実際の生き物たちの世界にも捕食・被食、共存、共生、競争、敵対などの社会的な関係性があり、それらの関係性には本来善悪はなく、生命誕生の時よりただ存在している、というコンセプトのもと、その生命の物語に人間社会を重ねて表現し、時代や国を問わない普遍的な作品をつくることを目指している。

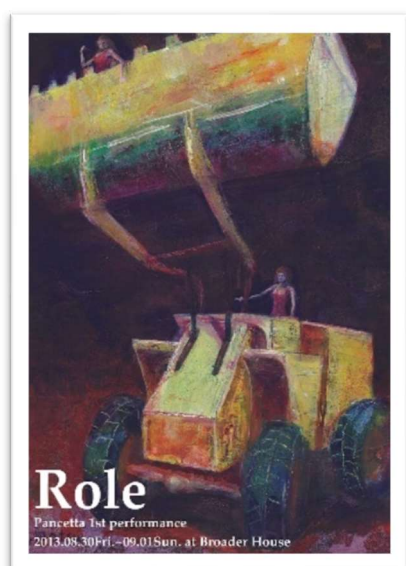
齋藤 俊輔

Shunsuke Saito

グラフィックデザイナー、アートディレクター

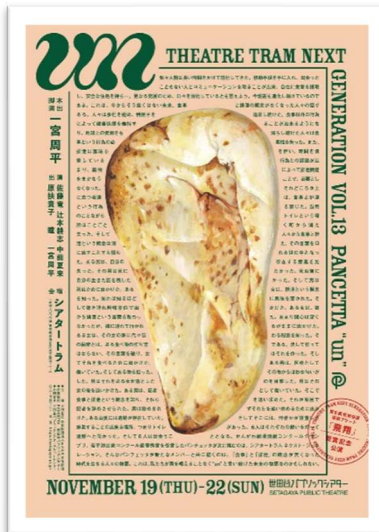
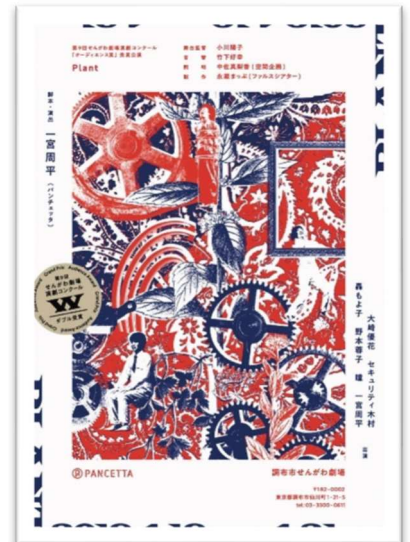
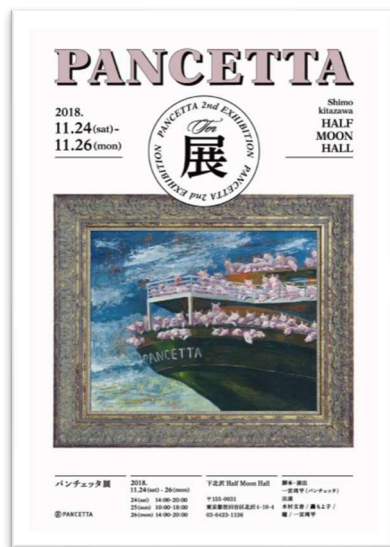
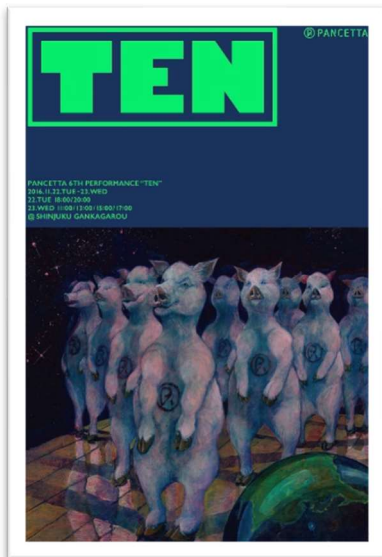
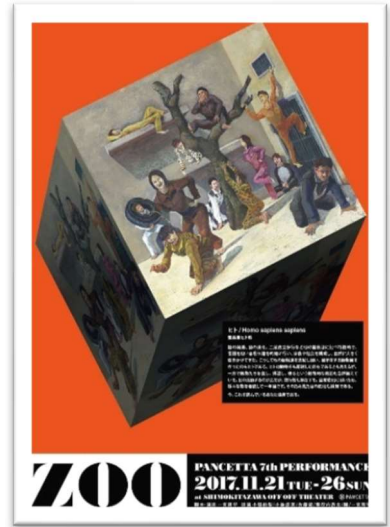
第2回公演「Cha」よりパンチェッタのグラフィックデザインおよびアートディレクションを担当。

2019年 デザイン事務所勤務を経てフリーランスとして活動開始。自分が自分らしくあること、人とはちょっと違ったところ、変わっているところ、はみ出したところ、良いところ、悪いところ。その「人」や「もの」が持つ、本当に大切な自分らしさ、すなわち個性を磨き上げ、魅力として世の中に出していくことを目標として、デザインしている。



<お問い合わせ先>

PANCETTA email: pancettapancetta@yahoo.co.jp



＜お問い合わせ先＞

PANCETTA email: pancettapancetta@yahoo.co.jp

PANCETTA の舞台に音楽は不可欠であり、PANCETTA 独特の世界観を表現する重要な役割を担っている。音楽はピアニストの加藤亜祐美が作品ごとに作曲し、舞台上でも演奏する。また、ピアノのみならずチェロやヴァイオリン、パーカッション、ベースなどの様々な演奏家が参加する。芝居と共に繰り上げられる生演奏は、PANCETTA 公演の特徴の一つでもある。

加藤 亜祐美

Ayumi Kato

ピアニスト、作曲家

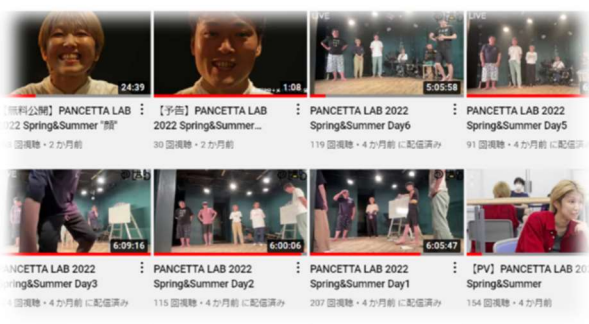
作曲家、ピアニストとしてクラシックからダンスミュージックまで、打ち込みからアレンジまでこなすマルチアーティスト。初のオリジナルアルバムでは、テクニカル且つリズムカルなピアノが魅せる現代版ジャズロックテイストの楽曲を基軸としつつ、軽やかで繊細なメロディアスな旋律も表現する幅広い演奏力で独特の世界観を表現することに成功する。TV 番組、CM、映画音楽、バックバンドなど、多岐に渡り楽曲を手掛けている。近年は朗読とピアノ演奏のコラボレーションライブを定期的に行っている。文学と音楽の融合を目指した新しい取り組みにも積極的に挑戦している。



<お問い合わせ先>

PANCETTA email: pancettapancetta@yahoo.co.jp

PANCETTA LAB（パンチェッタラボ）とは、2021年1月に立ち上げた、出会い、研究、実験を目的とした企画である。演劇公演は一般的に完成された作品を披露する場であるが、このLAB企画は、通常作り手たちだけが立ち会える特別な時間、作品が生まれる過程や瞬間を、観る側も共有できる取り組みで、一般の観客のみならず、若手の演出家や俳優たちが観ても学びの多い内容となっている。演劇を使っていかに日常生活を面白がることができるのか、日々新しい取り組みにチャレンジしている。過去の取組としては、同じ脚本を二人の演出家が演出して作品を作る過程と本番を一般公開した演出家対決企画や、脚本のないところから1週間で創作し、最終日に作品を上演する企画などがある。2023年1月には下北沢シアター711にて、富岡製糸場を舞台にした若手俳優の一人芝居公演をラボ企画として実施した。



PANCETTA LAB 2022 Spring & Summer Day1~6 の映像はこちら↓

<https://www.youtube.com/user/shuicnmy/videos>

PANCETTA LAB 演出対決映像はこちら↓

https://www.youtube.com/playlist?list=PL4VAKfYuBgdkQ-k_Gtp2sURR_H_TCPbw

ワークショップ

プロ、アマチュア問わず、普段のトレーニングの場として月に一度程度、演技ワークショップを開催し、毎回好評を得ている。既存の脚本を使用した演技指導のみならず、参加者で一つの作品を創作するなど、バラエティに富んだ内容となっているため、リピーターも多く参加している。



また初心者、未経験者へ向けた演技講座を映像に収め、一般公開している。PANCETTA ならではの視点を交えた内容は、演劇経験者にとっても興味深い内容となっている。

パンチェッタ演技講座 # 1~15 の視聴はこちら↓

<https://www.youtube.com/playlist?list=PL4VAKfYuBgdmNWDpgSsDYqVbfxvYwVHo>

<お問い合わせ先>

PANCETTA email: pancettapanchetta@yahoo.co.jp

過去公演（一部）

PANCETTA YouTube チャンネルにて過去作品を一部公開

→ <https://www.youtube.com/user/shuicnmy/playlists>

以下、過去作品（一部）の公演概要

PANCETTA 13th performance “蝉”

——何したっていいだろう、たった七日なんだから——

八月、陽の光に強く照らされた猛暑。彼らは鳴き続ける。この世に生を受け、年月を重ね、やっとの思いで地上に姿を現したのだ。自らの身体の形をした殻を残し、大空を飛び回り、そして必死にしがみつくと。休むことなくひたすらに鳴き続ける、大きな声で。彼らの晴れ舞台。たった七日で何ができるだろう。強く、強く、鳴き続ける。

期間：2022年9月8日(木)～9月11日(日)

会場：シアターグリーン BASE THEATER

出演：佐藤竜、新行内啓太、瞳、一宮周平

音楽・ピアノ：加藤亜祐美

ヴァイオリン：佐藤恵梨奈

ベース：村田悟郎



スチール撮影 市川唯人

<お問い合わせ先>

PANCETTA email: pancettapancetta@yahoo.co.jp

PANCETTA LAB 2022 spring & summer

――生まれるその瞬間を、見逃すな。――

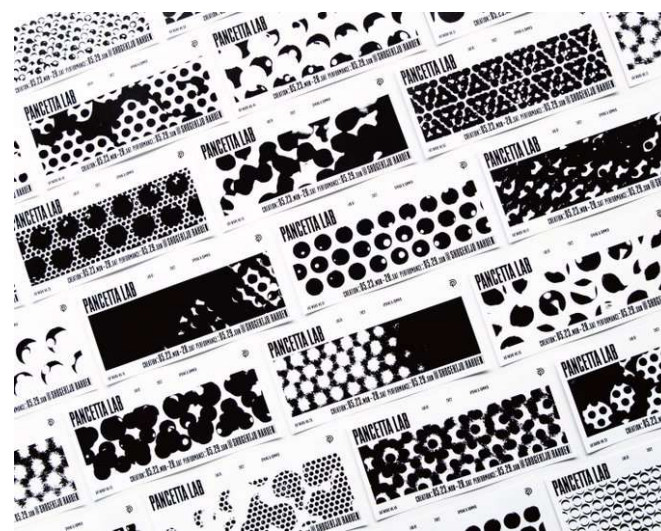
2022年、初夏。新作を創作。PANCETTA LAB（パンチエッタラボ）とは、2021年1月に立ち上げた、出会い、研究、実験を目的とした企画。本企画では、ゼロから創作過程を公開し、作品の立ち上がる過程を共に体験し、PANCETTA作品の新たな一面を発見してもらおう企画である。脚本を用意せず、何も無いところから一週間で創作し、最終日に作品を上演する。生まれる未知の作品は、最高傑作にも過去最低作にもなり得る。面白さとは一体何なのか、我々とともに大いに悩んでほしい。

期間：2022年5月23日（月）～29日（日）

会場：小劇場「楽園」

出演：佐藤竜、新行内啓太、瞳、一宮周平

音楽：小田桐陽一、加藤亜祐美



スチール撮影 市川唯人

<お問い合わせ先>

PANCETTA email: pancettapancetta@yahoo.co.jp

PANCETTA 11th performance「Na」

——名を、言ってやれ。——

我々は、物や人、事に対して多くの Na をつけ、呼び合うことで相互に理解を深めている。あなたは一人の人でしかないのに、その Na を呼ぶことであなただと特定できる。さあ今こそ、その Na を、言ってやれ。

期間：2022年3月10日(木)～3月13日(日)

会場：下北沢「劇」小劇場

出演：佐藤竜、はぎわら水雨子(食む派)、山崎千尋、一宮周平

ピアノ：加藤亜祐美

チエロ：志賀千恵子



スチール撮影 市川唯人

<お問い合わせ先>

PANCETTA email: pancettapancetta@yahoo.co.jp

PANCETTA special performance「米」

——実って、すみません。——

第9回せんがわ劇場演劇コンクール グランプリ、オーディエンス賞、俳優賞 トリプル受賞

若手演出家コンクール 2018 最優秀賞、観客賞 ダブル受賞

第6回世田谷区芸術アワード“飛翔” 舞台芸術部門

数々の賞を総なめにしてきた PANCETTA が、念願の本多劇場初進出！！2015年に発表した“米”を、新たなバージョンへと書き換えて一日限りの上演。

期間：2021年8月24日(火)

会場：本多劇場

出演：木村文香、佐藤竜、新行内啓太、瞳、一宮周平

音楽・ピアノ：加藤亜祐美

チエロ：志賀千恵子



実って、すみません。®
本多劇場にて
パンチエツタ
2021年8月24日(火) 19時

演出：志賀千恵子
脚本：志賀千恵子
音楽・ピアノ：加藤亜祐美
チエロ：志賀千恵子
出演：木村文香、佐藤竜、新行内啓太、瞳、一宮周平
主催：PANCETTA



スチール撮影 市川唯人



<お問い合わせ先>

PANCETTA email: pancettapancetta@yahoo.co.jp

第6回世田谷区芸術アワード“飛翔”舞台芸術部門受賞記念公演

シアタートラム ネクスト・ジェネレーション vol.13

PANCETTA special performance un

我々人類は長い時間をかけて進化してきた。移動手段を手に入れ、出会ったこともない人とコミュニケーションを取ることが出来、自在に栄養を摂取し、安全な住処を持ち…。更なる発展のため日々を消化しているとも言えよう。今現在も進化し続けているのである。これは、今からそう遠くはない未来、食事と排泄の概念がなくなった人々の話である。

期間：2020年11月19日(木)～11月22日(日)

会場：シアタートラム

出演：佐藤竜、辻本耕志、中前夏来、原扶貴子、瞳、一宮周平



スチール撮影 市川唯人

THEATRE TRAM NEXT
GENERATION VOL.13 PANCETTA "un" @
NOVEMBER 19 (THU) - 22 (SUN) 世田谷区立シアタートラム SETAGAYA PUBLIC THEATRE



<お問い合わせ先>

PANCETTA email: pancettapancetta@yahoo.co.jp